

たとえ小さな力でも

中 三

二〇一一年の三月十一日、東日本大震災がありました。私が住んでいる地域では、家の食器や学校の窓ガラスが割れたり、県内全体では計画停電が実施されたり、放射能問題などが起こったりしました。今でもその時のことはよく覚えています。

しかし被災地は、私が住む地域と比べものにならないぐらいの大きな被害を受けました。たくさんの人が亡くなり、たくさんの方が津波によって流されました。

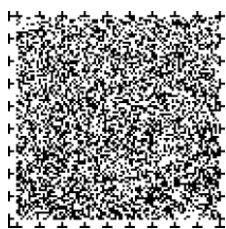
その時から日本中が復興に向けて動き出しました。私が通う学校も義援金を集め、復興に向けての活動をしました。

私は、学校以外の場所でも何か復興に向けて貢献できないものかと思い、被災地へランドセルを送りました。津波によってランドセルが流されてしまった小学生がいるはず。ランドセルと違って、新しいランドセルを送るわけではあり

ません。私が昔使っていたランドセルを送るのです。被災地で使う人のことを考えて、送り届ける前にピカピカに磨きました。私が使っていたランドセルが被災地の人によって使われ、役立っているのなら嬉しいことはありません。むしろ、とても嬉しいことです。

また、東日本復興支援のチャリティーコンサートに参加し、部活の仲間と共に演奏をしました。演奏を聴きに来てくださった方々からいただいた入場料は、義援金として被災地へ送られました。被災地のことを思って一生懸命よい演奏をするようにしました。多くの人の前で演奏するせいか、とても緊張しましたが、自分は一人ではなく、仲間がいるという思いから、緊張がほぐれ、安心して演奏することができました。そして何よりも、とてもたくさんの方が、復興に貢献するために来てくださったことに感動しました。私の周りの人々だけでなく日本全国に、そして世界にまでこのような動きが広がりました。

ところが、いまだに仮設住宅で暮らし、周りの人に気を遣って自由とは言えない



生活をしている人々がいます。放射能によって住み慣れた我が家にずっと戻れず、自分が住んでいた地域から離れた所へ引っ越した人もいます。震災当初と比べたら改善されたこともあります。まだまだ震災前の状態に戻ることは難しいです。被災者は元の不自由のない生活に戻る権利があるはず。

それを取り戻すためには、私達が震災のことを忘れないようにし、復興に向けての動きを止めないことが大切だと思います。

私がやったことは小さいことかもしれませんが、しかし、それを続けていくことにより、誰かの役に立つことになると思います。今、人と人が思いやる力が必要な時です。これからも復興に向けてできることをしていき、被災地が少しでも元の良い状態に戻るように、これからも活動を続けていきたいです。

